

# 令和3年度 自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書

柴田町立槻木中学校

1 評価期間 令和3年12月～令和4年2月

2 学校関係者評価委員

加藤 正光 (委員長)、菅野喜和子(副委員長)、平間 伸行、加藤 盛、平間 幸弘、大場 勝郎、松田ゆう子、我妻 一雄、佐藤 玲、川田 尚(校長)、遠藤 和弘(教頭)、石田 文彦(主幹教諭)、小野 宜也(教務主任)

3 評価規準

○妥当である。(A+B合算値が80%以上) (適切な取組で、次年度へ向けての取組も妥当である)  
 ○妥当でない。(A+B合算値が80%未満) (取組が不十分で、次年度へ向けての改善策も妥当でない。)  
 ○判断することができない。

※自己評価の数値の算出方法

**【A：大変良い B：良い C：課題がある D：かなり課題がある】**

**※AとBの合計数を、教職員数で割った値が80%以上である場合を妥当とする。**

4 評価項目

## 1. 地域に支えられ「地域と創る学校」づくりの推進

		自己評価	関係者評価
(1)	学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。	95%	妥当
(2)	学校の教育内容や実践を保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。	100%	妥当
(3)	保護者の支援や地域の教育力を生かし、学校の教育活動の一層の充実を図っている。	100%	妥当
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(1)	生徒、地域、学校の実態を踏まえた学校教育目標を設定して、教職員が協力して学校づくりに努めてきた。今年度は、地域との連携をなかなかとることができなかったが、昨年度よりできるところから地域との連携を進めてきた。さらに、地域との連携に努めたい。	・「地域を創る学校」づくりで大切なことはできるだけたくさんの方々に学校を知ってもらうことであるので、引き続き積極的な情報発信をお願いしたい。 ・各行政区からの協力が得られ連携がとれている。今後も継続してほしい。 ・地区生徒会を主体とする活動は大変素晴らしいので、今後とも積極的に進めてもらいたい。	
(2)	学校だよりを定期的に発行し、生徒の活躍や学校の教育方針などについて紹介してきた。また、学年だよりや等のおたよりや一斉発信メールなどで情報発信に努めてきた。次年度も継続していきたい。		
(3)	地区生徒会を母体とする「地域に貢献し隊」を結成し地区ごとにボランティア活動を実施した、さらなる充実に努めたい。		

## 2. 「学力向上」と学習指導要領の趣旨の徹底

		自己評価	関係者評価
(4)	「学力向上」を目指して、指導方法の工夫・改善を図るとともに、個性を生かした楽しく分かる授業の実践に努めている。	95%	妥当

(5)	学習意欲の向上と生活習慣・学習習慣を改善し、主体的な学習を促して基礎学力の向上に努めている。	91%	妥当
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(4)	学習指導部が中心となって、教科部会や学年部会などで生徒の実態に合った対策を講じてきた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上については家庭での学習への取組も重要である。先生方だけでなく保護者の方にも家庭で学習するための雰囲気作りなどに協力していただけるようにするとよい。</li> <li>・自主学習の提出状況について個人差があるように見受けられた。日々継続することの重要性を身に付けさせてほしい。</li> <li>・「主体的な学習」につなげるため、生徒たちの疑問ややる気の芽を見逃さず伸ばしていける取組を期待する。</li> </ul>	
(5)	教科の見方・考え方を働かせる学習活動を取り入れた授業の実践を行ってきた。		

### 3. 豊かな人間性を育む道德教育の充実

		自己評価	関係者評価
(6)	「特別の教科 道德」の指導方法の工夫改善を行い、道徳的实践力を高めるとともに、教育活動全体を通じた道徳的实践意欲の向上に努めている。	90%	妥当
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
特別な教科「道德」については教科書の活用を軸に各学年で道徳に取り組んできた。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的实践力の育成にもう少し力を入れてほしいと思います。</li> <li>・思いやりや気遣いなど社会に出ても協力し合える重要性を説いてほしい。</li> <li>・自分の考えが言いやすい雰囲気、学級集団づくりを大切にしてほしい。</li> </ul>	

### 4. 生命の尊重と社会性の育成を図る生徒指導の充実

		自己評価	関係者評価
(7)	「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が重要であるという共通認識のもと、いじめや不登校のない学校づくりに努めている。	100%	妥当
(8)	児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し、家庭と連携して基本的な生活習慣の育成に努めている。	95%	妥当
(9)	児童生徒に自己の特性を理解させるとともに、能力・適性や興味・関心等に基づいて将来の生き方を考えさせる志教育・キャリア教育の充実に努めている。	96%	妥当
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(7)	普段の学習や各種活動を通して、自他を認める心や他を思いやる心を育む指導に力を入れてきた。特にいじめについては定期的にアンケートを実施し、素早く目を摘むことに力を入れてきた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校数の多さが気に掛かる。</li> <li>・命を大切にすること、良好な人間関係を作ることは大変貴重なことだと思います。</li> <li>・社会力を身に付けるため、子供たちにできる限り多くの活動をさせてほしい。</li> <li>・家庭での教育は人間形成の基本である。学校から、家庭教育についてお話ししてほしい。</li> </ul>	
(8)	生徒の様子を注意深く観察し、家庭との連携を密に行ってきた。		
(9)	職場体験学習やキャリアセミナーなどの行事とともに、年間を通して将来を見つめる志教育、キャリア教育を進めてきた。		

### 5. 安全・安心な教育環境の整備・促進

		自己評価	関係者評価
(10)	児童生徒の安全に対する意識を高めるための指導や「防犯教室」等を実施して児童生徒の安全確保に努めている。	100%	妥当

(11)	地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」を実施して児童生徒の防災意識を育てている。	95%	妥当
(12)	「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している。	95%	妥当
(13)	生涯体育・スポーツの視点に立ち、健康でたくましい児童生徒の育成に努めている。	100%	妥当
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(10)	スマホ・携帯安全教室や薬物乱用防止教室などの安全に対する意識を高める活動を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安心な教育環境の整備に努めていた。今後もより一層の安全対策を心がけてほしい。</li> <li>・スマホによる被害報道や利用の仕方についての記事を目にする。家庭と連携を図っての指導を継続してほしい。</li> <li>・将来をみすえた指導を継続してほしい。</li> <li>・情報化社会となり使用することが当たり前となったスマホや、薬物等の指導をさらに強化してほしい。</li> </ul>	
(11)	各学年で防災教育を実施した。体験的に学ぶプログラムを通して防災への意識を高められるよう配慮した。		
(12)	地域の方々による見守り、教員による巡回を行った。登下校のマナーやルールについて随時各学級で指導を行った。		
(13)	保健体育の授業、部活動、生徒会活動などを通して、健康でたくましい生徒の育成に努めた。部長会を中心とした冬場の体力向上合同トレーニングに取り組む心と身体の健康を図ってきた。		

## 6. 特別支援教育の充実

		自己評価	関係者評価
(14)	特別支援の指導体制が整っており、特別な支援を必要とする児童生徒のニーズに応じた指導を行っている。	90%	妥当
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
支援学級においては保護者との連携を密に行い生徒のニーズに応じた細やかな支援を心がけてきた。各学級の支援を必要な生徒の把握に努め、教員間で共有を図った。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援担当者が早朝や土日にもかかわらず畑をみまわり生徒たちに収穫の喜びを味合わせていることに感銘を受けた。</li> <li>・これからも家庭との連携を密にし、将来自立できることを目指して指導をしてほしい。</li> <li>・協力学級との連携を特に密に進めてほしい。</li> </ul>	

## 7. 国際理解教育の促進

		自己評価	関係者評価
(15)	自国文化に対する理解を深めるとともに、英語や外国語活動に限らず他国文化に学ぶ国際理解と国際化に対応した教育の推進に努めている。	72%	妥当
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	

社会や国語、英語、総合等の時間を通して日本の文化や他国文化について学んできた。小学校との英語連携事業に参加したことで、国際理解の啓発にもつなげた。各教科の国際理解教育に充実に努めていく。

- ・話せる英語教育に力を入れてほしい。
- ・視野を広げられるよう小学校との連携指導を継続してほしい。
- ・興味をもつ機会づくりも大切にしてほしい。
- ・国際的なニュースは毎日のように耳に入るので新聞を活用した授業や取組時間を入れてはどうか？
- ・国際化というと英語や観光などに目を向けがちであるが、柴田町にはアジア圏を中心に多くの外国人が生活している。先日「やさしい日本語」の研修を社協で受けたが、とても有意義だった。日本語を使ったコミュニケーションのあり方を学ぶことで外国人だけでなく高齢の方や障害を持っている方との交流にも役立つと感じたので参考にしてほしい。

## 8. 情報教育の推進及び学校図書館の充実

		自己評価	関係者評価
(16)	高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている。	90%	妥当
(17)	学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。	86%	
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(16)	全校生徒にパソコン、学校にはWiFi、各教室に電子黒板が設置され、多くの授業で情報を活用した授業が開発されている。環境が整備され生徒の情報活用能力が向上してきている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育の現場で最先端の技術を導入して行ってほしい。</li> <li>・情報教育はこれからの社会への対応する力、読書活動は将来の生活に必要な力です。バランスのとれた指導をしてほしい。</li> <li>・引き続き教育委員会と連携し環境を整えてほしい。</li> <li>・読書の感想など長文ではなく要点と感想を簡単に説明する機会があるとよい。話し方のスキルアップにつながる。</li> </ul>	
(17)	朝読書や昼休みの図書室開放を通して読書の充実を推進する。		

## 9. 学校校地の自然環境の整備と自然体験学習の推進向上

		自己評価	関係者評価
(18)	校地内に花と緑の潤いのある教育環境をつくるとともに、児童生徒の自然体験学習の充実に努め、自分たちの住んでいる地域の自然環境を守り大切にしようとする心の育成に努めている。	100%	妥当
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
花壇やプランターの整備に専門員会や各学年の生徒がかかわり、校内にきれいに草花が年間を通して植樹されていた。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・校地内にもっと花があった方がよい。</li> <li>・花のある生活、環境作りを継続してほしい。</li> </ul>	

## 10. 教職員の資質及び指導力の充実・向上

		自己評価	関係者評価
(19)	教職員の自己研修を促し、指導力向上を図るとともに、学校課題の解決を図る校内研究・校内研修を積極的に推進している。	95%	妥当
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
校内研究に教職員全員で取り組んできた。指導主事訪問では専門教科外の教員が積極的にかかわり、研究を進めた。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も熱意をもち指導力向上に努めてほしい。</li> </ul>	

## 11. その他

		自己評価	関係者評価

(20)	子供たちと一緒に話をしたり、教育相談をするなどのふれ合う機会を多くつくっている。	100%	妥当
(21)	子供たちは充実した学校生活を送っている。	95%	妥当
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(20)	各学年の担当者が各ホールで時間を過ごし、生徒に目を配ってきた。担任生徒間では「自分ログ」という記録を通して悩みをきくなどコミュニケーションを図ってきた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも楽しい中学校生活が送れるよう生徒一人一人と向き合った指導をしてほしい。</li> <li>・“体験こそ我が師” コロナの中、成長期にある子供たちのために工夫と対策をとられての活動に感謝します。</li> <li>・生徒と教師とのコミュニケーションやふれあいがすべての基本になる。生徒が生き生きと生活できる学校を目指してほしい。</li> </ul>	
(21)	各行事で生き生きと活動する生徒の姿が見られた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で様々な活動が制限される中できることを最大限工夫して教育活動に取り入れてきた。		

## 12. 教育目標について

		自己評価	関係者評価
(22)	教育目標「※各学校の教育目標を記入」が、学校の教育活動において具現化されている。	100%	妥当
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
各学級、特別教室等いたるところに教育目標を掲げ、教師も生徒も教育目標を意識しながら活動できるようにした。職員会議では教育目標を具現化するための具体的な教育活動の提示がされてきた。		教育目標の具現化のための努力を継続してほしい。	

### ◆その他:学校関係者による主な意見

- ・コロナ禍で先生方は早朝から出勤なされ大変なご苦勞をなされていることに感謝を申し上げます。早くコロナが終息することを祈っております。
- ・情報発信として“かほピョン”で、「個性が花開く行事の企画」の活動の紹介がありました。OBとしてもうれしく思います。
- ・子供たちと会うと「あいさつ」を元気よく返してくれます。
- ・今年度は「地域に貢献し隊」を生かせなかったのが残念です（区長として）。すばらしいボランティア活動なので令和4年度こそ協力を得たい。
- ・不登校生徒（増加の中で）が心配される。
- ・有意義なICT活用の反面、SNS利用が心配される。
- ・自分の考えの発表について消極的であるという点は改善されていいと思う。（宮城県の地域性なのかかわからないが、また一方で宮城県の中学生の学力・体力・健康が全国に比べて低いというが、これも地域性からくるものなのか心配。これからはさまざまな積極性があってよいと思う。
- ・子供たちにとって「先生」と呼べる存在は今日の前にいる「先生」なのだと思います。これからも子供たちのことをよろしく願います。